



五穀豊穰を願って

公益財団法人日本植物調節剤研究協会 評議員
クミアイ化学工業株式会社 研究開発本部 開発推進部長
阿部 光市

我が家ではお正月に自宅近くの厄除神社に初詣に出向くことを恒例行事としています。今年も1月2日に2時間待ちで今年一年の家内安全・八方除のご祈禱をして参りました。初詣の他にも、通勤途中の神社にお参りしており、平穩に暮らせていることへの感謝、一日の安全の願いと一日の始まりとして神聖な場所で心身の浄化をしています。

昨年、とあるテレビ番組で神社社殿に飾られている注連繩しめなわの話題がありました。皆様はご存じとは思いますが、私自身これまで注連繩の意義などに疑問を持ったことはなく、単なるお飾り程度のものとして見ておりました。

注連繩の由来は諸説ある様ですが、日本神話「天岩戸隠れ」の伝説が起源とされています。太陽の象徴である天照大神あまてらすおみかみが弟の須佐之男命すさのおのみことの乱暴な振る舞いに心を痛み、岩屋に立てこもってしまい、世の中が闇となり、その結果農作物は育たず、病気も蔓延していることに困った八百万の神々たちが、天照大神を岩戸から連れ出し、再び岩戸に隠れないように入口を縛ったのが始まりのようです。

注連繩は神聖な領域と現世を隔てる結界の役割で、厄や禍を祓う意味もありますが、稲藁や麻を用いて作られることから、稲作と関連あるとされ、注連繩から垂れ下がる白い紙飾り「紙垂しで」は「稲妻」、「メの子」と呼ばれる藁の束の垂は「雨」を表し、注連繩そのものを「雲」として、雲、雨、雷を表現しています。そして雷の多い年は豊作となるとのいわれにより、五穀豊穰を願ったとされています。

しかしながら、耕作の恵みである雷や雨は、最近その限度を超え、大型台風や線状降水帯などによる水災害によって、生産者は苦しめられています。また、昨今の気候変動による猛暑や冬の少雨、大寒波による天候不順の影響で野菜価格が著しく高騰し、生産者だけでなく我々消費者の生活を圧迫しています。米作においては2024年の水稲作況指数は平年並みの結果でしたが、登熟期の高温によって品質低下が否めない状況でした。

このような著しい気候環境の変動による農業事情の変化に対応するため、農業に関わる様々な分野での技術革新が進ん

でいます。この植調誌でも各種取り組みの報告がありますが、私の所属する会社グループでもサステナビリティ基本方針として「環境と調和の実現」を掲げ、この異常気象の根源となっている地球温暖化、生物多様性の危機への対応を促進する具体的取り組みを開始しています。

様々な取り組みが進められている中、“気候変動に関する政府間パネル (IPCC)” が2023年3月に公表した第6次評価報告書 (AR6) の気候変動の緩和の作業部会報告で、「研究開発はすべての農業、林業及びその他の土地利用分野の対策にとっての鍵。それであってもなお、農業のメタンと一酸化二窒素の緩和は、コスト、農業システムの多様性と複雑さ、収量増加の必要性の高まり及び家畜製品の需要の増加によって制約を受ける。」と報告していました。これを受けて農林水産省の「農林水産分野における地球温暖化に対する取組」の中で、このAR6報告の文章を資料の中に盛り込み、計画の持続的な見直しおよび最適化が必要としており、農産物需要増加に伴う生産収量増加施策と地球温暖化対策との両立、トレードオフの重要性があることも提起しています。

一方、海外では米国の第2次トランプ政権が地球温暖化対策の、いわゆる「パリ協定」からの離脱を表明し、これに賛同する国も出始めています。二酸化炭素の排出国世界2位の米国がリーダーシップを放棄し、国際的対策の枠組みから外れることで途上国の支援が停滞し、これに変わる代案がなければ世界規模で大きな影響がでるでしょう。

日本国内で様々な取り組みが推進される一方で、大国の政策変化による世界規模での対策停滞が「天照大神」の逆鱗に触れ、注連繩で閉ざしたはずの岩戸に再び閉じこもり、世界が闇に包まれることのないよう祈るばかりです。

ようやく極寒の冬が明けて、春の耕作が開始される時期となりますが、大きな災害なく良い気候での五穀豊穰また皆様のご研究ご活動で良い成果が得られることを心より祈念いたします。